IISEE Newsletter

2018 年 9 月 29 日

第 161 号

国立研究開発法人　建築研究所国際地震工学センター

〒 305-0802　茨城県つくば市立原１　TEL 029-879-0678　FAX 029-864-6777

今月の話題

- 石井国土交通大臣表敬訪問
- 地震工学通年研修 2017-18 閉講
- 学位授与式－政策研究大学院大学－
- 閉講式での研修生代表答辞

研修データベース

IISEENET（地震防災技術情報ネット）

IISEE-UNESCO レクチャーノート

Eラーニング

シノプシス・データベース（修士論文概要）

Bulletin データベース

石井国土交通大臣表敬訪問

国際地震工学センター　管理室長　飯竹　理広

研修生代表挨拶

9月10日（月）に地震工学通年研修の研修生が石井国土交通大臣を表敬訪問しました。研修生は、大臣から、本研修成果や相互のネットワークを活かし、それぞれの国の地震防災対策のリーダーとして活躍して欲しいと激励されました。

また、研修生を代表して、エルサルバドル共和国のウィリアムさんからは、歴史ある本研修プログラムを通じて、開発途上国に対する支援に御礼を述べた上で、本研修で得た知識を活かし、研修生それぞれの母国での災害対応能力を高めると共に、災害リスクを軽減する情熱を持ち続けることで、本研修の素晴らしい功績を証明したい旨の決意が述べられました。

最後に、21名すべての研修生が大臣から握手をしていただきました。

今回実施された石井国土交通大臣表敬訪問が、母国の将来を担う研修生の励みになることを期待します。

石井大臣と研修生

地震データベース

2011 年 3 月 11 日東北地方太平洋沖地震

地震情報

宇津カタログ（世界の地震被害）

地震カタログ（世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等）

論文募集

IISEE Bulletinは、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。

送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。

是非チャレンジして下さい。

地震工学通年研修 2017-2018 閉講

国際地震工学センター　管理室長　飯竹　理広

JICA 筑波国際センター
高橋政行所長

建築研究所研究総括監
林田康孝

昨年10月3日からスタートした地震工学通年研修の閉講式が、9月13日(木)に建築研究所で行われました。

今年は、10 カ国 21 名の研修生に対して、研修修了証と科目履修証が授与されました。

この研修に選ばれて参加した研修生は、地震学、地震工学、津波防災の 3 つのコースに分かれ、それぞれの専門性を考慮した講義を受講するとともに、母国で抱える個別の課題に対応するための調査研究をまとめました。

式では、政策研究大学院大学の春原防災政策プログラムディレクターからは最優秀研究賞が、国際地震工学センター長からはセンター長賞がそれぞれ 3 名の研修生に授与されました。

研修で得た知識や人的ネットワークを活かし、母国でのご活躍をお祈りします。

楽しむのは今です。

政策研究大学院大学
防災管理政策プログラム春原浩樹教授

最優秀研究賞を受賞した
イブラヒムさん
（S コース、エジプト）

最優秀研究賞を受賞した
ナビルさん
（E コース、モロッコ）

最優秀研究賞を受賞した
ベンツさん
（T コース、フィリピン）

センター長賞を受賞した
カンデルさん
（S コース、ネパール）

センター長賞を受賞した
ジャマンさん
（E コース、バングラデッシュ）

センター長賞を受賞した
ウィリアムさん
（E コース、エルサルバドル）

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEEと卒業生の架け橋を目指しています。

ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国でのご活躍をお知らせ下さい。

また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお誘い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

学位記授与式－政策研究大学院大学－

国際地震工学センター　管理室長　飯竹　理広

地震工学通年研修は、独立行政法人国際協力機構及び政策研究大学院大学との連携により、所定の成績を収めれば、修士（防災政策）号を取得することが可能な研修となっています。

9 月 14 日(金)には、地震工学通年研修に参加した研修生のうち、19 名が政策研究大学院大学で行われた学位記授与式に出席してきました。

地震工学通年研修 2017-2018 コースの実施にあたって、ご協力いただきました関係者の皆様には、心から感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

学位授与式

バックナンバーは下記をご覧下さい。

http://iisee.kenken.go.jp/nldb/

閉講式での研修生代表答辞

ルイス　アーネスト　ミクシコ　デュラン　エルサルバドル

ルイス　アーネスト　ミクシコ　デュランさん

建築研究所研究総括監林田康孝様、政策研究大学院大学防災管理政策プログラム春原浩樹教授、国際協力機構筑波センター高橋政行所長、横井俊明国際地震工学センター長、そしてご臨席の皆様、おはようございます。

2017 年度地震、耐震工学、津波防災コースの研修員を代表し、卒業の辞を申し上げる機会を頂きましたことを心より感謝申し上げます。

この一年間、わたくしは、日本を第二の故郷と思ってきました。ここ日本で、これからも決して忘れることはない素晴らしい時間を過ごし、かけがえのない経験を積むことが出来ました。古代からの美術、美しい景色、最先端の技術すべてが、この国にあり、新しいものと伝統のコントラストが見事な国です。かつ、日本は、我が国との友好関係を深め、そして、永遠に続くきずなを築き、そして、その美しい文化をわたくしたちに見せてくれました。しかしながら、様々な自然災害がこの国を襲います。その一方、たゆまない努力、忍耐、そして技術を駆使して、決して怯むことなく、災害へ立ち向かっています。ゆえに、日本は、リスクマネージメントと防災において、世界基準であると認識されています。

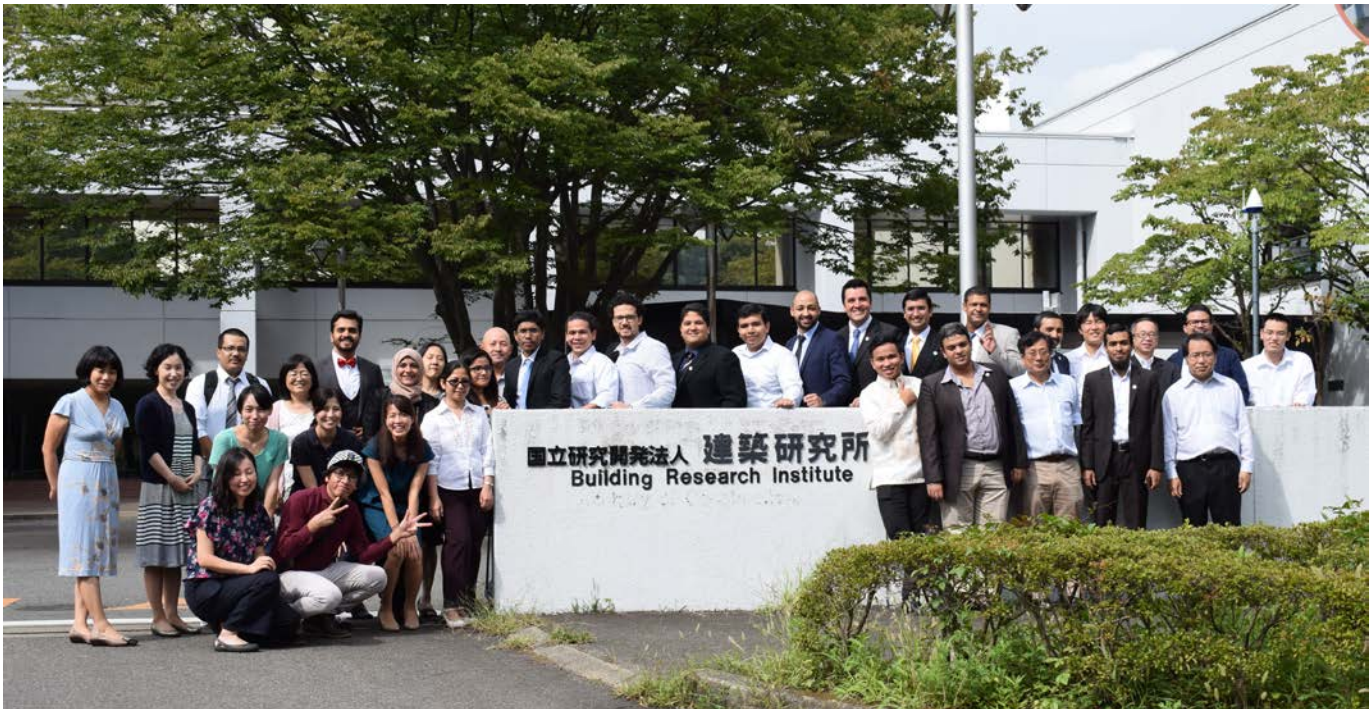
この賞賛すべき行動を分析すると、自然災害へ対処するうえで成功する日本の特徴に、わたくしは気づきました。この特徴は、二つあり、講義、視察、かつ、東日本大震災、新潟地震、神戸および熊本地震に関する旅行で実際に見る機会を得て、この特徴を知ることができました。まず一つめの特徴、日本は幼少期から、社会への意識かつ福祉に関わる教育を充分に行っている点です。これは、大災害による被害に、迅速に立ち向かう力の原動力と考えます。二つめの特徴は、ボランティアの重要性を認識している点です。このボランティア活動は、自分のことよりも他人の幸福を願う気持ちからなり、それが、防災管理における目標を達成するうえで、大切な要素となっています。この日本の文化および国民性は、わたくしが心の底から敬意を表するものです。

光陰矢の如し。夢、期待、希望を抱いて自国を発ってから一年たちます。一年前は、わたくしたち皆、貪欲なほど知識を求めていました。先生方の知恵、スタッフの皆さんの優しさ、わたくしたちの周りには常にサポートがあったからこそ、わたくしたちが抱いた目標に達すことが出来たのです。そして、修士号を得て、新たな章のスタート地点にも立つこともできました。来日した日から、わたくしたちは、技術、熱意、価値からなる生き甲斐を常に高めてきました。それは、わたくしたちの研究結果で示されたと思います。シェークスピアの一節：我々は今の自分を知っているがこれからは何になるかはわからない。つまり、努力、献身、忍耐、熱意がなければ、わたくしたちがなるべき姿を見出すことはなかったでしょう。

ここにいる皆が、この気持ちを胸に抱き、努力してきことをわたくしは知っています。そして今後、自身のキャリア向上を常に心に置き、勤務する機関にて技術が向上するよう、様々な意見に耳を傾けるようにしていきます。ここにいる皆が、日本で得た知識を、自国で活用し、教示していきます。例えるなら、肥沃な土地に蒔かれた種であり、日々の業務にて、短期的、長期的、どちらでも、その種から成長する果物が実ら

せます。そして、自然災害に対応すべく、わたくしたちの社会がレジリエント、今まで以上に力強くなっていくのです。

今一度、国際地震工学センター、建築研究所、国際協力機構、政策研究大学院大学の皆様へ、この一年間、わたくしたちに下さった知識、経験、そして信頼に、感謝を申し上げます。そして、ここで共に学んだ友へ、信頼そして友情をありがとう。かけがえのないものです。そして、この旅たちを祝福します。ネルソン・マンデラ氏の言葉です、「高い丘を越えたのだが、そこには、また上るべき多くの丘があることに気づくのだ」。ここいる友が自国に帰り、始まる新たな一章に幸多いことを心から祈ります。

ありがとうございました。

閉講式